

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	和歌山県立桐蔭中学校	深野泰宏
学校所在地		
(〒 640 - 8137) 和歌山県 和歌山市吹上五丁目6番18号 tel 073 (436) 7755 fax 073 (436) 7766		
担当者名		役職名・担当教科
貝尻 早希		教諭・国語科
<p><b>〔学校の概要〕</b>                      桐蔭中学校は、今年で開校19年目を迎え、併設型中高一貫校としてこれまで数々の特色ある教育活動を展開してきた。卒業後に進学する桐蔭高等学校は、明治12年3月、和歌山城南隣の岡山に設立された旧制和歌山中学校に始まり、今年で147年を迎える歴史と伝統のある学校である。                      「桐蔭生」は、本校の校訓である「文武両道」のもと、高度な学びと人としての素養を広げることを通して、バランスのとれた人格形成を目指して歩み続けてきた。「桐蔭は自ら人生を切り拓く人を育てます」の教育方針のもと、自己の在り方生き方を考え、次代を担う人材を育成することに力を入れている。県民からの期待と信頼に応え、社会で活躍する人材を数多く輩出している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1年生 80名	7名 職員 4名	高野山 檀上伽藍～奥の院
実践研究テーマ		
「和歌山学」を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断する能力を育てる		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間 「キャリア桐の葉Ⅰ」	「和歌山の魅力について語れるようになろう」	
<p><b>〔キーワード〕</b> 世界遺産学習 協働学習 課題解決学習 情報活用能力</p>		
<p><b>〔単元目標〕</b>                      (1) 和歌山の自然・文化・歴史について、書籍やインターネット、フィールドワーク等を通じて多角的に調査し、和歌山ならではの「独自の価値」や「魅力」を見出す。 (知識及び技能)                      (2) 和歌山の未来を担う「人財」としての自覚を持ち、地域社会の課題や可能性について、主体的・協働的に考えを深める。 (学びに向かう力、人間性)                      (3) 収集した情報を整理・分析し、ターゲットに合わせて、和歌山の魅力を最も効果的に伝えるための構成や表現方法を工夫する。 (思考・判断・表現)</p>		
<p><b>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</b>                      全体 30 時間 （「高野山から学ぶ～和歌山の自然や文化、歴史を探究する～」 14時間 ）</p>		
<p><b>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</b>                      (1) 和歌山県世界遺産センター…次世代育成事業（世界遺産入門、現地学習等）                      (2) 世界遺産マスター …次世代育成事業（現地学習）</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. 和歌山城でウォークラリーを行い、交流を深めるとともに、歴史や文化について学ぶ。 2. 和歌山の魅力について、自然・経済・歴史・文化の分野から情報収集する。	・城内にある看板から情報を読み取る。 ・県立博物館・県立美術館にて歴史や文化に触れる。 ・「わかやま何でも帳」デジタルブックを活用する。	【知識及び技能】 目的に合わせて適切に情報収集することができる。 (ワークシート・活動の様子)
2	3. 世界遺産講座を通して、和歌山の世界遺産について関心をもつ。 4. 「高野山」校外学習において、高野山の魅力と価値について学ぶ。 5. 高野山をテーマにポスターセッションを実施し、相互評価する。 6. 高野山フォト俳句コンテストを行う。	・世界遺産センターによる出前授業を受講する。 ・高野山に関する「問い」を設定する。 ・海外の観光客にインタビューする。 ・班ごとに現地で学んだことをポスターにまとめる。 ・現地で撮影した写真を活用する。	【学びに向かう力、人間性】 世界遺産マスターや旅行者に積極的に質問することができる。 (ワークシート・活動の様子) 班で話し合いながら、計画的に作業を進めることができる。 (ポスター・活動の様子)
3	7. 和歌山のおすすめ観光ルートを個人で考える。 8. 「和歌山ひとり旅」プレゼンを行う。	・条件を提示し、それらをクリアする旅行プランを立てる。 ・班代表プレゼンをクラスで実施する。	【思考力、判断力、表現力】 他の人のプレゼンを見て、自分の発表に生かそうとすることができる。(発表・振り返りシート)
4	9. 和歌山の偉人を選び、生き方や考え方について調べる。 10. 「偉人×観光」をテーマに学習発表会でプレゼンを行う。	・小学校での学習を振り返り、偉人の業績や名言に注目する。 ・和歌山の偉人をたどる観光ルートを提案する。	【思考力、判断力、表現力】 偉人から学ぶべきことを見だし、今後に生かそうとすることができる。(発表・振り返りシート)
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>成果・・・生徒たちは、それぞれの出身小学校での学習をお互いに紹介しながら、さらに深めたり、新しい知識を得たり、関心をもって取り組むことができた。和歌山の魅力や価値を再発見しながら、自分たちが住んでいる地域に対する愛着や誇りを持たせることができた。また、自分の考えをわかりやすく伝えるための工夫を考えさせることができた。ポスターセッション、プレゼンテーションに時間をかけて取り組むなかで、班で協力して計画的に物事をすすめる難しさに気づき、お互いの持ち味をどう生かすかについて考えさせることができた。</p> <p>課題・・・和歌山のために尽力されている地域の方々とつながり、和歌山の現状と未来について、中学生と大人とが一緒に語り合える機会を設けることができれば、より主体的な学びになっていく。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>世界遺産マスターからの説明や対話を通じて、世界遺産に対する意識を高めることができた。世界遺産としての価値を語り継ぎ、今後も守り続けていく必要があることを実感させることができた。また、海外からの観光客とコミュニケーションをとる中で、世界における日本や和歌山の魅力について考えさせることができた。地元和歌山が世界から価値を認められているという認識を持つことができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>世界遺産学習は、環境保全、伝統文化の継承の視点からも必要な学習項目である。総合的な学習の時間に限らず、教科横断的な形で取り組むことができる。国語科では和歌や古文から当時の様子をうかがったり、社会科では宗教や文化の歴史的背景を学んだり、さまざまな視点で関心を高められる。学校全体で見通しをもった全体計画を共有し、取り組んでいきたい。</p> <p>自ら課題を見つけ解決しようとする力が社会では求められている。その力を養うためにも、世界遺産学習を通して、社会が抱える問題を見つめ、中学生としてどう関わらせていくかを考えていく必要がある。校内での学習にとどまらず、学校が地域と連携し、生徒が具体的行動を起こせるようなゴールを意識した取り組みにしていくことが改善点である。</p>			

様式 2

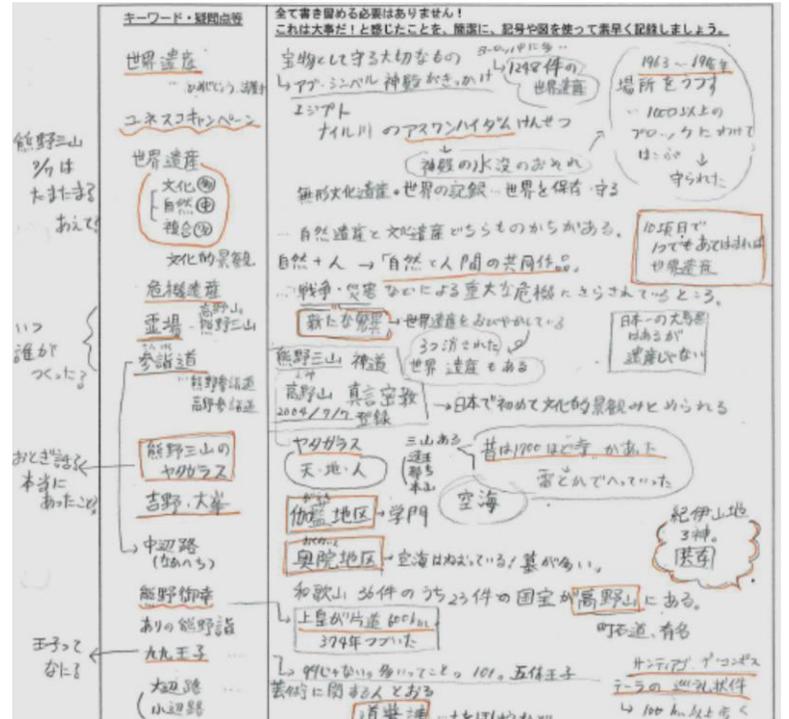
令和7年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

○世界遺産講座 (令和7年10月24日)



世界遺産センター土永先生に出前授業をしていただきました。生徒たちにとって初めて知ることばかりで、充実した時間を過ごすことができました。現地学習が大変楽しみになる1コマでした。



○高野山校外学習 (令和7年10月30日)



(生徒の講義メモ)

檀上伽藍～金剛峯寺、奥の院～弘法大師御廟を世界遺産マスターに案内していただきました。生徒の質問にも丁寧に答えてくださり、高野山の魅力についてしっかりと学ぶことができました。

また、海外からの観光客に生徒たちは英語でインタビューを行い、交流を楽しみました。

○ポスターセッション (令和7年12月17日)



1年全体でポスターセッションを行いました。お互いに質疑応答し、高野山の魅力や価値について発表し合いました。わかりやすく説明するために、いろいろな工夫をすることができました。

○フォト俳句コンテスト



生徒が高野山で撮影した写真に自作の句を添えて、フォト俳句を作成しました。俳句コンテストとして、投票を行いました。